

科目区分	専門分野	授業科目	チーム医療論
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次
<p>目的: チームで協働するためのスキルを理解し、看護に必要な多職種との連携・協働の基礎的能力を養う。</p> <p>目標: 1 他者と協働し、チームを効果的に機能させる視点及びスキルを理解できる。 2 関係職種間での連携及び協働により、地域社会の人々の保健・医療・福祉に貢献できる態度を養う。</p>			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 協働:他者とともに活動する	15	1 協働するための視点とスキル 1)チームとは 2)チームの構成要素 3)チームの機能 4)チームワーク 2 リーダーシップ 1)リーダーシップとは 2)リーダーシップの理論 3)リーダーと信頼 3 フォロワーシップ 4 チームの一員に求められる協働 1)協働するためのコミュニケーション、マナー、姿勢 2)承認するスキル 3)アサーション 4)交渉とコンサルテーション 5 継続看護のための協働 1) 継続看護とは 2) 退院支援調整 3) 看護職間の協働 4) 多職種との協働	
2 看護における多職種連携	8	1 各専門職から考える多職種連携 役割と機能、法的責任、専門性を生かした連携の在り方 1) 薬剤師との連携 2) 理学・作業療法士との連携 3) 栄養士との連携 4) 介護支援専門員との連携	
3 多職種との連携・協働	6	1 多職種の役割と協働を考える ※1 1) 目標達成のために必要な職種と役割の理解 2) 目標設定と共有 3) 目標達成に向けたそれぞれの職種の役割 4) 多職種との連携・協働の方法	
	1	試験	
評価方法		レポート、ロールプレイ	

テキスト	医学書院 地域在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 MC メディカ 看護の統合と実践① 看護管理
参考資料	
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。
備考	※1はロールプレイ 単元3 多職種との連携・協働の実際には、事例について学生が考えた連携・協働方法について、ロールプレイし、講師(施設の看護師や介護士など)から助言を頂く。

科目区分	統合分野	授業科目	臨床看護の実践
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	3年次
目的：臨床の状況に対応するための判断力と看護実践の基礎的能力を習得する。 目標：1 複数の対象の看護展開の特徴を理解し、ニーズと状況に応じた看護援助が実践できる。 2 対象の状態に応じた看護援助を実践し、看護実践能力の到達度を評価できる。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 複数対象への看護実践	15	1 複数の対象の看護展開の特徴 1) 身体・精神・社会的側面の状態を予測する 2) 根拠に基づいた状況判断 3) 優先順位の決定と対処 2 看護業務の特徴 1) 多重課題 3 複数対象への看護の実際 ※1 1) 複数対象の状況に合わせた看護の優先順位の決定 2) 複数対象のニーズに応じた看護援助を実践する 3) タイムマネジメント 4) 状況に対応する(予定変更 複数の行為 複数の人とのかかわり)	
2 OSCE	15	1 OSCE(客観的臨床能力試験)オリエンテーション 2 課題の実施 3 OSCEの実施※2 1) 点滴静脈内注射を実施している聴力機能低下のある患者の寝衣交換 2) 膀胱留置カテーテルと点滴静脈内注射を実施している倦怠感のある患者の移乗の介助 3) 酸素療法を実施している胸部痛のあった患者のポータブルトイレでの排泄介助 4) 下腿に浮腫・深部静脈血栓のある患者の下腿の清拭と弾性包帯の巻きなおし	
評価方法	シミュレーション、OSCE(客観的臨床能力試験)、レポート		
テキスト	MC メディカ 看護の統合と実践① 看護管理 医学書院 看護の統合と実践〔2〕 医療安全 医学書院 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ		
参考資料			
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。 3年間の学びを統合し、患者に適した看護を考えること。		
備考	※1はシミュレーションを行う。 「複数対象への看護の実際」では、二人の患者の事例に対し看護援助を実践する。 ※2はOSCE(客観的臨床能力試験)を行う。 4つの学習課題の中から1つをOSCEとして実施する。		

科目区分	専門分野	授業科目	救急看護
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	3年次
<p>目的：救急看護の対象の特徴と救急看護に必要な基礎的知識・技術を習得する。</p> <p>目標：1 救急看護の役割と救急看護の場について理解できる。 2 救急看護を受ける対象の特徴を理解できる。 3 救急看護の実際に必要な知識・技術を理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 救急看護の概念と対象	4	1 救急看護とは 1) 救急看護の定義と役割 2) 救急看護師と救急看護の専門性 3) 救急看護の課題と展望 2 救急医療体制 1) 救急医療システム 2) 救急搬送システム 3) 救命の連鎖 4) メディカルコントロール 3 救急看護と法的・倫理的側面 1) 関連法規と救急看護 2) 倫理面への配慮 4 救急患者の特徴 1) 発症原因の多様性と状況 2) 心理的特徴 5 救急患者家族の特徴 1) 家族システムへの影響 2) 心理・社会的特徴 3) 家族のニーズ 4) 代理意志決定支援	
2 救急患者への看護の実際	10	1 救急看護の実際 1) 一次救命処置 ※1 2) 二次救命処置 (1) 救急患者の観察とアセスメント (2) 緊急度・重症度の判断と治療の優先順位 (3) 補助器具による気道確保 (4) 補助器具による人工呼吸 (5) 補助器具による循環系救命処置 (6) 人工呼吸器の管理 (7) 救急時の検査 (8) 救急医薬品 (9) 体温管理 3) 中毒への対応 4) 熱傷への対応 5) ショックへの対応	
	1	試験	
評価方法		筆記試験	

テキスト	医学書院 別巻 救急看護学
参考資料	
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。
備考	※1は演習を行う。 一次救命処置の演習では、気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ・AED の使用 方法を行う。

科目区分	専門分野	授業科目	災害看護・国際看護
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	3年次
<p>目的： 災害時及び国際社会での人々の健康と生活の再建・向上にむけた援助方法を理解する。</p> <p>目標： 1 災害が人々の健康に及ぼす影響と看護の役割を理解できる。 2 災害サイクルに応じた看護を理解できる。 3 世界の健康問題の現状と国際救援活動を理解し、国際時代を担う看護師の役割を理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 災害看護活動	20	1 求められる災害看護 1) 近年の国内外の災害 2) 災害看護の歩み 2 災害医療の基礎知識 1) 災害の定義 2) 災害の種類と健康被害 3) 災害医療の特徴 4) 災害時の支援体制と医療体制 5) 災害と法制度 3 災害各期の看護 1) 災害看護の定義と役割 2) 災害看護の対象 3) 災害看護の特徴と看護活動 4) 災害各期の特徴と各期における保健医療の役割と看護 4 被災者特性に応じた災害看護 5 災害とこころのケア	
2 国際看護活動	9	1 世界の健康問題の現状 2 グローバルヘルス 1) プライマルヘルスケアとヘルスプロモーション 2) 人間の安全保障 3) ミレニアム開発目標 4) 持続可能な開発目標 3 国際協力のしくみ 4 開発協力と看護 5 国際救援と看護 6 21世紀の国際協力の課題	
	1	試験	
評価方法	筆記試験		
テキスト	医学書院 看護の統合と実践〔3〕 災害看護学・国際看護学		
参考資料			
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	医療安全論
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	3年次
<p>目的：医療安全や感染予防の考え方を理解し、看護職としての責任と役割を果たすための基礎的能力を習得する。</p> <p>目標：1 組織的な医療安全文管理体制の取り組みの実際を理解できる。 2 看護事故防止の取り組みとその防止策について理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 組織的な医療安全管理	4	1 組織的な医療安全管理体制への取り組み 1) 安全文化の醸成 2) 組織的な医療安全管理体制 3) 事故やヒヤリハット事例(インシデント)の分析と対策	
2 医療安全の実際	10	1 患者に投与する業務における事故防止 2 継続中の危険な医療行為の観察・管理における事故防止 3 療養上の世話の事故防止 4 業務領域を越えて共通する間違いと発生因子 1) 患者間違い 2) 情報伝達の混乱と情報共有の不足 3) 間違いを誘発するタイムプレッシャーと途中中断 4) 新人特有の危険な思い込みと行動パターン 5 危険予知トレーニング(KYT) ※1 6 看護師の労働安全衛生上の事故防止 1) 職業感染 2) 暴露防止 3) 院内暴力	
	1	試験	
評価方法	筆記試験		
テキスト	医学書院 看護の統合と実践〔2〕 医療安全		
参考資料			
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。 ※1は演習を実施する。		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	看護マネジメント
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	3年次
<p>目的：看護サービスを効率的・効果的に提供するための看護管理の基礎的能力を習得する。</p> <p>目標：1 組織の意義を理解できる 2 看護ケアのマネジメントの概要を理解できる。 3 看護サービスのマネジメントの概要を理解できる。 4 看護活動における経営的視点の必要性が理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 看護管理 とマネジ メント	14	1 マネジメントに必要な知識と技術 1) 組織とマネジメント (1) 組織とは (2) 集団とチーム (3) 組織の構造と機能 (4) 組織における意思決定 (5) 組織文化 2) 看護マネジメント (1) 看護マネジメントとは (2) 看護マネジメントのプロセス 2 看護ケアのマネジメント 1) 患者の権利の尊重 2) 安全管理 3) 看護基準と看護手順 4) 看護業務のマネジメント (1) 業務計画のプロセスとマネジメント (2) チームメンバーとの情報共有 (3) 多重課題における対処 (4) 夜間における業務マネジメント 3 看護サービスのマネジメント 1) 看護サービスのマネジメント 2) 組織目的達成のマネジメント 3) 看護サービス提供のしくみ (1) 看護単位の機能と特徴 (2) 看護ケア提供システム 4) 人材のマネジメント (1) キャリアディベロップメント (2) 労働環境 5) 施設・設備のマネジメント 6) 物品のマネジメント 7) カネのマネジメント 8) 情報のマネジメント 9) サービスの評価 (1) 第三者による評価 5 看護活動と経営	
	1	試験	
評価方法		筆記試験	

テキスト	MC メディカ 看護の統合と実践① 看護管理 医学書院 基礎看護学〔1〕 看護学概論
参考資料	
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。
備考	

科目区分	専門分野	授業科目	看護研究
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位 (30時間)	開講年次	3年次
目的： 研究の意義や概念を理解し、研究成果を看護実践に活用できる能力を習得する。 目標： 1 看護研究の意義と研究過程の概要を理解できる。 2 ケーススタディの意義と方法を理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 研究の意義と過程	14	1 研究の目的 2 研究の成果 3 研究の種類と方法 1) 質的研究 2) 量的研究 4 研究過程 1) 研究課題の明確化 2) 文献検索と文献検討 (1) 意義と種類 (2) 方法 (3) 読み方 (クリティーク) ※1 (4) 引用方法と記述 3) 概念枠組みの設定 4) 仮説の設定 5 研究計画書 6 論文の一般的な構成と留意点 7 研究における倫理的配慮 1) 遵守すべき倫理原則と擁護すべき権利 2) 研究倫理に関するガイドライン 8 研究発表 1) 研究成果を発表することの意義 2) 発表の場 3) 発表方法	
2 ケースレポートの意義と方法	15	1 ケースレポートとは 1) ケースレポートの目的および種類 2) 構成要素 2 ケースレポートのすすめかた 1) 看護過程 2) テーマ設定 3) 観察と記録 4) 情報の収集と整理 5) 倫理的配慮 3 ケースレポート作成の実際※2	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、レポート等		
テキスト	医学書院 別巻 看護研究		

参考資料	
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。
備考	※1, 2は演習を行う。

統合実習

〔2単位 90 時間〕

目的

専門知識と技術と態度を統合し、保健医療福祉チームの一員として看護実践が出来る能力を養う。

目標

- 1 保健医療福祉チームにおける看護の機能と看護管理の実際を理解できる。
- 2 複数の対象の状態に応じた看護や特定の状況に応じた看護展開を理解する。
- 3 複数の対象の意思や価値観を尊重し、援助関係を形成できる。
- 4 保健医療福祉チームの一員としての役割を意識し、責任ある行動がとれる。

実習期間及び時期

3年次 9月～11月 12日間程度